日合商時報

No. 745
2021 年
4 月

Japan Plywood Wholesalers Association https://www.nichigosho.net/
発行所：日本合板商業組合　〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町 3-5-4　TEL 03（5256）9080　e -mail：jpwa@oboe.ocn.ne.jp

日合商の基本は『協調と連帯』

日合商は昭和 52（1977）年に合板・建材を扱う流通業界の活性化と、関係官庁に意見書が提出できる組織として発足した歴史ある組織であり、業界唯一の国の認可団体です。その「会勢強化」は、業界の活性化につながるものです。また、新規会員・賛助会員の数が増えることで関係官庁への発言力も増し、社会的な影響力も拡大していくものと考えています。

2021 年 3 月 25 日（木）13：30 ～ 14：15

WEB 会議システムによる
日合商2020年度第三回理事会を開催しました

出席理事数 50 名（書面出席 26 名、WEB 会議システムによる出席 24 名）
出席監事数　6 名（書面出席　5 名、WEB 会議システムによる出席　1 名）

東京のホスト会場には、足立建一郎理事長はじめ小川明範副理事長等の在京本部役員が出席、リモートでは石本勝範副理事長はじめ 21 名の理事が出席して WEB での理事会が開催されました。足立建一郎理事長が議長となり、第一号議案から第五号議案までの審議が行われ、全議案とも可決承認されました。

議事を進行をする
足立建一郎理事長

さらに報告事項 1. 要望（陳情）について、報告事項 2. ホームページの改修状況について、金井事務局長から報告。審議事項及び報告事項すべてが終了し、閉会となりました。

2021 年 3 月 25 日（木）14：30 ～ 16：00

WEB 会議システムによる
2020年度第二回合板需給懇談会を開催しました

第三回理事会終了後に、生販の情報交換の場として第二回合板需給懇談会が WEB 開催されました。ホスト会場には農林水産省林野庁林政部木材産業課から 課長 眞城英一氏はじめ 3 名、日本合板工業組合連合会からは井上篤博会長、中西宏一理事、日合商からは足立建一郎理事長、小川明範副理事長他在京の本部役員が出席しました。懇談会に先立ち、林野庁の眞城課長より令和 3 年度林野庁予算等について、森林・林業・木材産業による「グリーン成長」等の新たな基本計画と前年度より拡充された令和 3 年度の予算の概要を説明頂きました。また、懇談会では、リモート参加された各地の日合連の役員から国内合板の供給情況の説明、また日合商リモート参加の役員からは、各地区の市況状況の報告、また国内合板の安定供給の要望など意見交換がされました。

※林野庁から頂きました会議資料「令和 3 年度林野庁予算等について」は日合商ホームページの新着情報・トピックスの 3 月 31 日に掲載しています。

日合商ホームページ
https://www.nichigosho.net

足立建一郎理事長より
開催の挨拶

日本合板工業組合連合会
井上篤博会長ご挨拶

林野庁林政部木材産業課
課長　眞城英一氏

2021 年度
第一回理事会　開催ご案内

第 43 回日合商通常総会を再延期したことに伴い、同日予定していた「日合商 2021 年度第一回理事会」を 5 月 19 日（水）15：00 ～ 16：00 に WEB 会議システムにより開催することになりました。

書面会議による
「2021年度日合商通常総代会」実施のご案内

第 43 回日合商通常総会を再延期したことに伴い、「2021 年度日合商通常総代会」は、書面会議と致します。
◆日程 2021 年 5 月 28 日（金）
議案書等は 5 月初旬に発送を予定しています。

日合商支部　5 月スケジュール

★新型コロナウイルス感染防止対策のため
各支部総会は書面会議となりました。

北海道支部	通常総会
関西支部	通常総会
中部日本支部	通常総会

jutec Group

変化を力に、
そして新しい変革へ

今年、創業98周年を迎える。
100周年まで残り僅かだ。
昨年はコロナの影響もあり、さまざまな環境が一変した。
この変化（CHANGE）を
「変革の機会（CHANCE）」ととらえ、
今年は新たなる一歩を踏み出していく必要がある。
昨年は行動が制約された反面、スキルや能力向上のための
「CHARGE（充電）」は十分できたはずだ。
「突破力」をキーワードに、昨年の「CHANGE（変化）」を
「猛CHARGE（攻勢）」へと転換させ、
より大きなイノベーションへと
発展させていかなければならない。
そこにまた新しい「変革」がみえてくるはずだ。

ジューテックホールディングス株式会社
代表取締役社長　足立 建一郎

突破力

ジューテックグループ
www.jutec-hd.jp

ジューテックホールディングス株式会社　〒105-0012 東京都港区芝大門一丁目3番2号　TEL.03-6435-9100（代）　FAX.03-3433-1360

【関連会社】
㈱ジューテック
グッドハウザー㈱
中部フローリング㈱
㈱グリーンハウザー
角野産業㈱
ジューテック秋田㈱
イシモク・エモリ㈱
ジューテックホーム㈱
㈱クニヒロ・ホームテック
㈱JUTEC物流
㈱イワベニ
オフィスオペレーション㈱

JK情報センター　2021年（令和3）4月～6月需要動向予測調査より

工務店・販売店による需要予測

2020年12月の新設住宅着工戸数が国土交通省より発表され、1～12月の累計は81万5,340戸（前年比90.1%）となった。利用関係別の累計前年比では、持家が90.4%、貸家が89.6%、分譲住宅が89.8%と全ての種別で前年を下回る結果となった。年間を通して見ると、貸家と分譲住宅共全ての月で前年割れの結果となったが、持家は直近の11・12月と2ヵ月連続で前年を上回り始めており、持家需要の回復が窺える。

このような環境下で2021年4～6月の需要動向予測調査がまとまった。工務店（工務店・その他建築会社）の需要予測はマイナス34.5ポイント（前回比プラス11.5ポイント）、販売店での需要予測はマイナス38.0ポイント（前回比プラス10.5ポイント）となった。

1回目の宣言解除後の見通しでは、マイナス67.0ポイントまで一気に落ち込む結果となったが、今回の宣言解除が予定されている後の需要予測では、マイナス幅が1～3月調査に引き続き縮小する結果となった。感染症対策にも慣れ始め、積極的に新しい営業方法を模索する企業が増えるなか、この回復基調が今後どのような展開を見せるか次回調査にも注目したい。

主要メーカーによる販売予測

主要メーカーによる販売予測でも、全分野で前回調査から増加予測が拡大し、減少予測が縮小した。特に合板と木質建材は、共に前回0%から増加予測が表れ始めた。窯業・断熱に関しても前回比で増加＋7.9%、住設機器も前回比で増加＋21.4%と増加予測は増えており、回復基調となっている。

	増加予測	前年並予測	減少予測
合板	36.4%	45.4%	18.2%
木質建材	27.8%	33.3%	38.9%
窯業・断熱	16.6%	30.0%	53.4%
住設機器	35.7%	39.3%	25.0%

各種調査とリフォームの現状

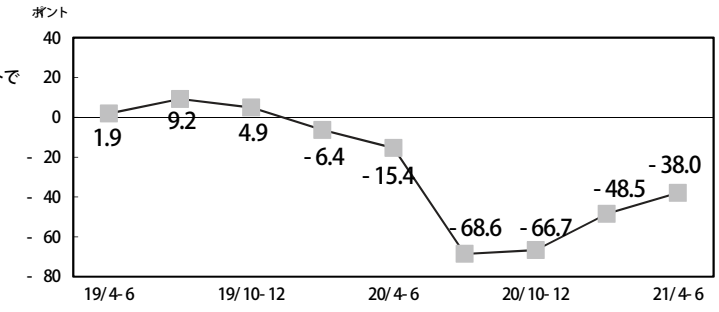
各種調査では前回の緊急事態宣言発出時同様、新型コロナについて調査した。事業活動への影響は「大いにある」が前回調査（2020年7～9月）は36%占めたのに対し今回は11%、物件の契約延期は、3ヵ月以上先の回答が前回は60%占めたのに対し今回は48%と、影響度は薄くなっている。一方で、取引先の倒産や休廃業は、6割以上の回答者が増加を予測しており、長期化する事への将来の不安が窺える。

リフォームの現状では、売上平均が250万円以上の中大型案件が増えており、新しい生活様式に対応した大規模改修も増えていると窺える。4月からは、グリーン住宅ポイント制度の受付も始まり、リフォーム工事での利用増加も予想される。制度の利用促進で、需要掘り起こしを期待したい。

調査の時期と方法
この調査は2021（令和3）年1月下旬から2月中旬までを調査時点として、お取引先3000社にインターネットによる調査を行い、回収したものを一括集計したものです。※JKHDグループ19社のお取引先にも調査依頼をしています。

販売店
景気動向の推移

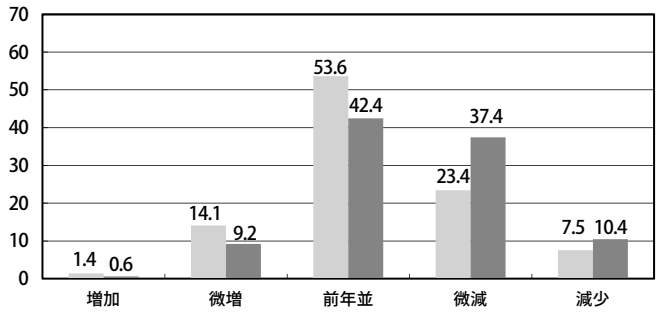
過去2年間の仕事量の見通しをポイントで表したグラフ。



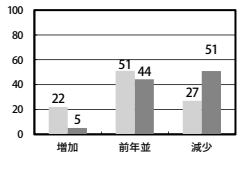
販売店
地域別需要予測

全国　回答数 2,694

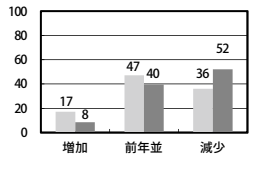
「増加」「微増」「前年並」「微減」「減少」の中からお選び頂き、総回答数よりそれぞれの割合を算出致しました。
単位は、「%」となります。



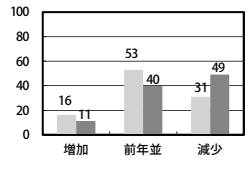
北海道



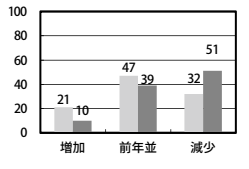
東北



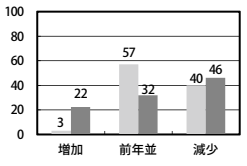
関東



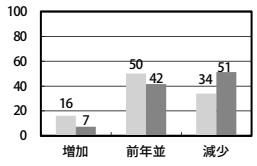
甲信越



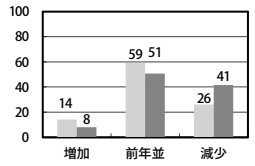
北陸



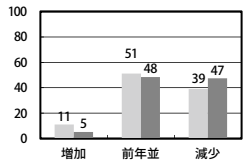
中部



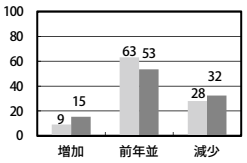
近畿



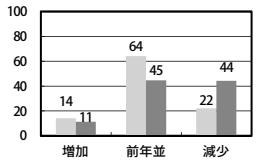
中国



四国

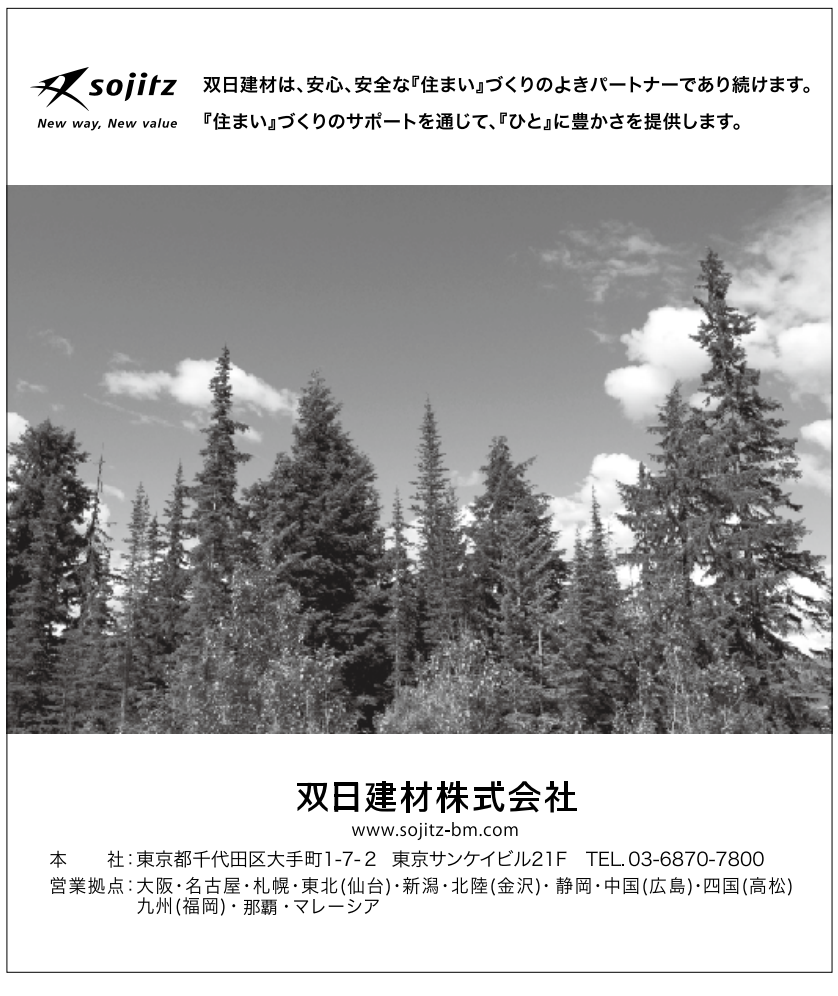


九州



＜有効回答数＞

北海道	181	中国	137
東北	319	四国	124
関東	898	九州	260
甲信越	223		
北陸	63		
中部	248		
近畿	241		



合板市況と今後の見通し

日本合板商業組合東京支部
東京都ベニヤ板問屋協同組合
新風会　猪爪 清和

概　要

2021年2月の新設住宅着工戸数は60,764戸（前年同月比3.7%減）で20カ月連続の減少となった。その内､木造住宅は35,448戸（前年同月比1.0%減）で20カ月連続の減少となった。季節調整済年率換算値は80.8万戸で前月比0.8%増、2カ月連続の増加となる。

利用関係別では持家が20,390戸（前年同月比4.3%増）で4カ月連続の増加、貸家は22,556戸（同比0.4%減）で30カ月連続の減少、分譲17,398戸（同比14.6%減）で先月の増加から再びの減少となった。分譲の内訳はマンションが6,779戸（同比27.5%減）で先月の増加から再びの減少、戸建ては10,470戸（同比4.0%減）と15カ月連続の減少となった。

国内・外合板の供給量

2月の国内合板生産量は25.3万㎥（前月比100.3%、前年同月比93.8%）と発表された。その内、針葉樹合板の生産量は24.6万㎥（同比100.8%、94.5%）となり、出荷量は24.0万㎥（同比96.3%、104.2%）で、在庫量は11.4万㎥となり、先月より0.6万㎥増加となった。

輸入合板の2月度入荷量は16.9万㎥（前月比79.2%、前年同月比96.8%）となった。国別入荷量はマレーシアが5.4万㎥、インドネシアが5.8万㎥、中国が3.6万㎥の入荷量となっている。

今後の見通し

輸入合板に関しては、大方の予想通りに減少している。今後もワーカー不足やコンテナ問題などから、急激な生産増は見込めない状況である。しばらく現地価格は強気で推移すると思われる。港頭在庫が極めて低水準である事や先行き入荷量も更に絞られることから、アイテムによっては欠品状態が継続され、為替の影響もあって一気に価格の上昇が進んでいる。必要量は先手、先手で確保しておいた方がよいだろう。

国内針葉樹合板市況は、各メーカー生産量が抑制される中、出荷は堅調に推移している。そのため在庫量は若干増加しても11.4万㎥と、生産量の0.5か月分しかない状況である。価格も落ち着いた相場感になっており、この厳しい状況を打ち破っていくには、メーカーには徹底して減産を行ってもらい、流通は針葉樹塗装型枠など構造用以外への針葉樹合板の使用推進を強烈に行っていくことが最も必要と考える。

国内合板、輸入合板ともに底堅い相場の展開が続くと思われる。

林野庁主催「令和2年度第4回木材需給会議」の検討結果

主要木材の入荷量等の概要

資料：「主要木材の需給見通し」

	四半期	区　分		丸太 国産材 製材用	丸太 国産材 合板用	丸太 国産材 計	丸太 輸入丸太 米材	丸太 輸入丸太 南洋材	丸太 輸入丸太 北洋材	丸太 輸入丸太 NZ/チリ	丸太 輸入丸太 計	輸入製材品 米材	輸入製材品 欧州材	輸入製材品 南洋材	輸入製材品 北洋材	輸入製材品 NZ/チリ	輸入製材品 計	合板 国内製造	合板 輸入	合板 計	構造用集成材 国内製造	構造用集成材 輸入	構造用集成材 計
令和2年	10-12月	実績	実数（千㎥）	2,886	1,160	4,046	429	12	13	58	512	341	430	89	96	73	1,029	808	512	1,320	430	184	614
			前年比（%）	86.8	95.7	89.2	75.1	34.4	52.0	69.0	71.6	77.5	74.3	84.0	62.3	100.0	76.1	93.4	79.0	87.2	85.1	86.0	85.4
	年計		実数（千㎥）	11,380	4,327	15,707	1,812	81	51	284	2,226	1,391	2,383	368	543	301	4,986	2,992	2,216	5,208	1,760	892	2,652
			前年比（%）	86.8	89.4	87.5	74.6	61.0	46.7	80.1	73.6	79.2	93.0	88.8	82.9	74.4	86.0	90.0	87.4	88.9	91.9	106.3	96.3
令和3年	1-3月	見込み	実数（千㎥）	3,000	1,200	4,200	529	3	3	80	615	290	540	80	120	69	1,099	785	532	1,317	435	205	640
			前年比（%）	93.1	98.6	94.6	98.8	10.9	19.8	111.1	94.8	88.1	92.7	87.2	69.8	80.2	87.2	98.0	84.0	91.8	94.6	96.7	95.2
	4-6月	見通し	実数（千㎥）	3,100	1,150	4,250	530	12	10	72	624	320	560	90	130	67	1,167	780	509	1,289	450	210	660
			前年比（%）	108.4	112.0	109.3	122.8	42.1	46.6	97.6	112.4	74.3	80.9	88.2	79.8	91.8	79.9	112.1	82.6	98.2	96.8	82.0	91.5
	7-9月	見通し	実数（千㎥）	3,100	1,150	4,250	549	6	10	70	635	320	550	90	140	72	1,172	800	534	1,334	465	180	645
			前年比（%）	128.6	124.6	127.5	132.0	46.2	731.5	87.5	124.5	110.3	81.0	105.9	125.0	104.3	94.9	116.4	117.4	116.8	114.8	75.0	100.0

東京の合板卸売り価格（円）

※東京都ベニヤ板問屋協同組合、日本合板商業組合「市況通信」より
（注）1車単位（10トン）問屋売り価格・90日手形（JAS製品）

品　目		3月17日	前週比	3月24日	前週比	3月31日	前週比	4月7日	前週比
ラワンJAS F☆☆☆☆	2.3㎜ T2	610	+10	620	+10	620	0	620	0
	4.0㎜ 〃	740	+20	750	+10	750	0	750	0
	5.5㎜ 〃	920	+20	930	+10	930	0	930	0
	9.0㎜ 〃	1,480	+10	1,480	0	1,480	0	1,480	0
	12.0㎜ 〃	1,800	+10	1,800	0	1,800	0	1,800	0
針葉樹構造用（ネダノン）	F☆☆☆☆ 12㎜ C-D	1,060	0	1,060	0	1,060	0	1,060	0
	F☆☆☆☆ 24㎜ 実付	2,500	0	2,500	0	2,500	0	2,500	0
	F☆☆☆☆ 28㎜ 実付	2,800	0	2,800	0	2,800	0	2,800	0
	F☆☆☆☆ 9㎜ 3×10	1,960	0	1,960	0	1,960	0	1,960	0
輸入・型枠用	12㎜ JAS製品	1,280	+20	1,280	0	1,280	0	1,280	0
輸入・構造用	F☆☆☆☆12㎜ JAS製品	1,350	+10	1,350	0	1,350	0	1,350	0

2021年3月25日現在

【グリーン購入法】に基づき事業者新認定・期限更新した5社

北海道	-③-0026	㈱クワザワ	代表取締役社長	桑澤 嘉英
東京・長野	-④-0122	横澤建材㈱	代表取締役	横澤 宏昭
東京	-④-0123	京浜住器㈱	代表取締役	戌亥 圭介
東京・静岡	-0243	㈱永谷	代表取締役	永谷 和之
中国	-0102	㈱大三商行	代表取締役	石川 和重

林野庁主催「令和2年度第4回木材需給会議」に先立ち、日本合板工業組合連合会・日本木材輸入協会・日本合板商業組合による「合板需給検討委員会」において合板の短期需給見通しを検討しました。

国産合板の需要

1. 令和2年第4四半期の実績について　今回（838千㎥）

（実績数量の背景、前年同期との比較等）

12月価格は値戻しが浸透した。仮需を含む流通側在庫等の手当が増加したため、発注に対し出荷待ちが発生した。また、生産に対し需要が大きく、製造在庫は大幅に減少することになった。需要量は、前四半期を大きく上回る増加となり、前年同期比ではマイナス4.9%となりマイナス幅は減少傾向が進んでいる。

2. 令和3年1四半期の見込みについて　今回（760千㎥）

（見込み作成の根拠、前年同期との比較等）

需要は、12月に底値が出たことから、実需裏付けのプレカットと流通の在庫手当が活発となった。しかし、供給側は雇用調整助成金があることから生産計画に無理な増産は見込まれない。そのうえ東日本の納期遅延は後半では解消に向かっているが、西日本では遅延は続いている。特に、一部プレカット工場の住宅会社向け加工分等は、満足する仕入れに至っていないところも出ている。

前年同期比ではプラス0.2%となる見通し。

3. 令和3年第2四半期の見通しについて　今回（750千㎥）

（見通し作成の根拠）

新型コロナ第4波への対応が上手くゆきワクチン接種が順調に進むと仮定する条件で、年度の新設住宅着工数を81万戸水準と予想とすると、需要は令和2年四半期平均水準まで増加の見通し。

（前年同期との差異について）

前年は緊急事態宣言による影響が大きく落ち込んだため、前年同期比ではプラス7.3%となる見通し。

4. 令和3年第3四半期の見通しについて　今回（780千㎥）

（見通し作成の根拠）

ワクチン接種が進み供給側の生産が上がり、オリパラ後の建築需要の回復が期待されるが、労働者不足・木材供給不足・原材料のコスト上昇などのマイナス要因も顕在化する状況となる。しかしこれを差引しても、需要は今年前半より一段と増加する見通し。

（前年同期との差異について）

前年同期比ではプラス6.4%となる見通し。

5. その他注目点等

国産合板の商品開発は、今後の大きな注目点になると考えられる。針葉樹の型枠合板が大きく伸びない中、繊維板との複合型枠。CLTとの住み分け利用が期待される超厚合板などの需要用途拡大の可能性は期待される。

合板　短期需給見通し

（Unit：1,000㎥）

		供給			需要（出荷）			期末在庫		
		計	国内製造	輸入合板	計	国内製造	輸入合板	合計	国内製造	輸入合板
2020(R2)10-12	前回予測	(1,218)	(700)	(518)	(1,295)	(715)	(580)	(1,046.056)	(110.930)	(935.126)
	実績	1,320.022	808.416	511.606	1,357.000	837.770	519.230	1,024.078	96.576	927.502
計		5,208.000	2,993.000	2,215.000	5,250.000	3,028.000	2,222.000			
2021(R3) 1-3	前回予測	(1,227)	(770)	(544)	(1,270)	(740)	(530)	(1,090.056)	(140.930)	(949.126)
	見込み	1,316.000	785.000	531.000	1,290.000	760.000	530.000	1,050.078	121.576	928.502
4-6	前回予測	(1,288)	(750)	(538)	(1,490)	(750)	(540)	(1,088.056)	(140.930)	(947.126)
	見通し	1,289.000	780.000	509.000	1,270.000	750.000	520.000	1,069.078	151.576	917.502
7-9	見通し	1,334.000	800.000	534.000	1,310.000	780.000	530.000	1,093.078	171.576	921.502

輸入合板の需要

1. 令和2年第4四半期の実績について　今回（519千㎥）

（実績数量の背景、前年同期との比較等）

前四半期の供給の大幅減少による港頭在庫の減少で品不足アイテムの増加のため、流通側在庫等の手当のための需要を中心に回復した。結果、輸入量を上回る需要（出荷）となった。

前年同期比では、マイナス20.5%となった。

2. 令和3年第1四半期の見込みについて　今回（530千㎥）

（見込み作成の根拠、前年同期との比較等）

現地での新型コロナ防疫対応の移動制限による生産労働者不足、中国の他国より早い経済再開によるコンテナ不足と運賃の上昇を考慮すると、オーダーを決めても順調な入荷にならないという供給側の状況は変わらず続いている。需要も供給見合いの水準となる見込み。前年同期比では、マイナス15.7%となる。

3. 令和3年第2四半期の見通しについて　今回（520千㎥）

（見通し作成の根拠）

新型コロナ対応が順調に進むと仮定し、年度の新設住宅着工数を81万戸水準と予想とすると、需要は令和2年四半期平均水準まで増加の見通しとなる。しかし、この一年の輸入合板の調達の不安定感から代替品へ向かう意識が強くなること等をマイナス要素に考慮すると一段低い見通しとなる。

（前年同期との差異について）

前年同期比では、マイナス14.4%となる見通し。

4. 令和3年第3四半期の見通しについて　今回（530千㎥）

（見通し作成の根拠）

供給側の輸入事業者が、現地の供給体制の不確実な状況から確信の持てる仕入れ手当ができず、現時点での先物買いの決断に苦慮している。需要も同様に現時点での先物引合いは目立たず、現状ベースの水準になる見通し。

（前年同期との差異について）

前年同期はコロナ禍による現地の供給体制が崩れ、供給・需給ともに大幅な減少となったため、前年同期比では、プラス13.6%となる見通し。

2021年3月18日（木）

第22回 日合商関西支部懇親ゴルフ大会が開催されました

茨木カンツリー倶楽部 西コースに28名が集い、晴天のもとで心ゆくまで技を競って親睦を深めました。

成績 TOP5（敬称略）

優勝　辻　　治男
2位　三輪　　香
3位　田中　康裕
4位　正司　茂希
5位　久々山 大樹

トピックス　日合商ホームページより新着情報・トピックスをご確認ください

●4月2日

「JAS構造材個別実証支援事業」について令和3年の第一次公募が開始されましたのでお知らせします。

詳細はウェブサイトへ

【JAS構造材利用拡大HP】

詳しい内容は
日合商ホームページ
【トピックス】を
ご参照ください

https://www.nichigosho.net

私たちが
世界のために実現出来ること。

地球と
暮らしを考える。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

JKホールディングスグループでは、
持続可能な社会構築を目指す
SDGs参画を通して、現代社会に
蔓延する多くの課題解決に向け取り組みます。
地球資源を暮らしに活かす企業だからこそ、地球の未来を
想い、人、自然、そして経済の発展に貢献します。

JKホールディングス株式会社

東京都江東区新木場1-7-22 TEL.03-5534-3800　https://www.jkhd.co.jp